

Tancho



第37号

巻頭言	・・・1	タンチョウ保護研究グループの標識調査 理事長 百瀬邦和
2018年度 活動報告	・・・2	
2019年度 活動計画	・・・4	山階鳥類研究所からタンチョウ保護研究グループ（RCC）がタンチョウの標識調査を引き継いで、今年で15年になりました。この間、実に大勢の方が調査に協力してくださっています。リングの装着作業に参加して下さった方だけでも400名以上、のべ2900人を超えています。この間に標識放鳥したタンチョウは317羽にのぼります。毎年の捕獲・放鳥と標識鳥の追跡調査に参加して下さった方々には調査の結果をまとめたTKGニュースをお届けしていますが、今冬までの結果をまとめた203羽（保護・飼育放鳥を含めると218羽）の生存を報告しました。RCCの今冬の総数調査の結果は1650羽（概数）ですから、北海道にいるタンチョウの10%以上に標識がついていることになります。
トーマス・ワトソン財団のフェロー C. J. ブレアJr. が来釧なさいました	・・・4	
標茶高等学校での自然ガイド授業の感想	・・・5	
<連載> 鳥と自然と人④ 石 弘之	・・・7	これまでの標識調査の結果から、野生状態でタンチョウはどれくらい長生きをしているのか、平均の寿命、雌雄による寿命の違いなどのほか、繁殖地と越冬地の間をどのように移動しているのか、繁殖地や越冬地は毎年決まっているのかといったことが明らかになってきました。また、ヒナを標識する際に採取することができる血液や糞は、貴重な資料として、性別の判定、ヒナの遺伝子型、餌の判定、寄生虫の有無などの分析に活用されています。
Belaya(ベラヤ)の続報	・・・7	
<活動記録>	・・・8	RCCのヒナの追跡調査を含めた標識調査活動は海外でも高く評価されており、今年は私たちの調査手法を参考にするため、タイのオオヅルの研究グループのメンバーが研修に見えました。今後は標識調査の結果を、年々難しくなっている総数把握の補足資料として、また、タンチョウ分散化に向けた具体的な移動状況の資料として、さらに繁殖地の環境判断の資料などにも活用していけるのではないかと考えています。

2018年度 活動報告

★調査研究活動

<タンチョウ生息状況調査>

・繁殖状況調査

2018年4月28日と29日に十勝の沿岸湖沼群および中小河川の中・下流域と十勝川流域(帯広市以東)、5月6日と9日に釧路湿原及び釧路川上流域で行いました。このうち十勝川流域は北海道開発局池田河川事務所からの委託事業の中で、また釧路湿原はNHKの取材に協力する中で行いました。

・総数調査

2019年1月13日に釧路市内の「わっと」でカウント調査勉強会を行いました。調査は1月30日から2月10日まで、2月4日と5日の予備日を除いて10日間行いました。調査地は日程順に、十勝東部、十勝西南部、音別・白糠、阿寒(2日間)、浜中・根室、中茶安別、標茶・弟子屈、鶴居(2日間)で、日高、オホーツク等その他の地域は個別に情報を収集しました。参加者は計54名、のべ151人でした。結果は1650羽(概数)となりました。

<タンチョウ標識調査>

2018年6月23日に釧路市内の「わっと」で事前勉強会を実施しました。予備調査の後、捕獲・標識調査は6月30日より7月18日まで、計11日間行いました。調査には47名、のべ124人が参加者し、19羽のヒナを捕獲し放鳥しました。標識個体の確認情報の収集は随時行なっています。

<DNAを使った野生タンチョウの

自然下の餌調査>

酪農学園大学寺岡研究室との共同研究で、タンチョウの餌生物の同定を行うことを目的として、標識調査の際にヒナから採取した糞に含まれる餌生物のDNAを分析しました。

★保護・保全活動

<タンチョウの生息地分散>

2019年1月22日、北海道苫小牧市で行なわれた

環境省主催の「タンチョウの生息地分散と地域振興について考えるシンポジウム」に協力し、G. アーチボルド理事が講演しました。

<中標津俵橋湿原プロジェクト>

本年度も中標津町より借用している俵橋湿原内の町有地でトウモロコシを耕作しました。昨年以上に畝を高くし、プラスチックのマルチ用シートと防鳥ネットを使用した結果、これまでで最も良いトウモロコシが育ちました。このトウモロコシを刈り取り、この畑の中と、約4km離れた俵橋高台にある中司農場の畑脇に計2つのニオ型給餌台を設置しました。また根釧農業試験場から約150kgのデントコーンの提供を受けました。今冬は俵橋湿原のニオ型給餌台で2つがい越冬し、中司農場のニオ付近でも複数羽が越冬した模様ですが、正確な羽数は確認出来ていません。プロジェクトの将来について地元の中司道議に協力を依頼しました。

<キナシベツ湿原プロジェクト>

キナシベツ湿原での大学生グループのフィールドアシスタント(FA)の活動に協力するとともに、タンチョウについてレクチャーを行いました。

★教育普及活動

<タンチョウ、その他ツル類に関する

講演・講習会>

・2018年11月19日、北海道浜頓別町で行なわれた環境省主催の普及啓発イベント「知ろう！考えよう！タンチョウと身近な自然」に参加し講演しました。

・2019年1月25日、東京新宿区四谷で行なわれた日本生態系協会主催の国際フォーラム「多様な生き物を守り、生かす観光-地方の思いと地域経済の発展-」を後援・協力し、G. アーチボルド理事が講演しました。

<会報の発行・ホームページ制作等>

・会報

会誌「Tancho」第34号を2018年7月、第35号を

2018年11月、第36号を2019年3月に発行しました。また、2018年6月にTKGニュース64号、9月に65号を発行し標識調査と冬期カウント調査の参加者ほかに送付しました。

・ホームページ

日本語ページのWhat's New! コーナーの記事を年度内に15回更新しました。また、その他に主な活動の中の情報の一部を更新しました。

★ 国際協力活動

＜国際タンチョウネットワークの

活動への参加・協力＞

2019年1月-2月に中国で行なっている国際ネイチャースクールの中心メンバーとして活動している講師4名を迎えて第5回国際エコキャンプを行いました。この活動にはイオン環境財団と北海道野生生物基金とから助成を受けています。このキャンプの参加者は釧路地方で環境問題に取り組んでいる標茶高校を訪問して交流したほか、キナシベツ湿原でのレクチャーと見学、当法人の第36回タンチョウ総数カウント調査にも参加しました。

＜世界のツル関係者との

交流及び情報交換＞

- ・2018年4月5-6日に韓国の順天市で開催された「2018順天市国際ツルシンポジウム」に参加、講演しました。
- ・2019年1月に来釧したICFの「G. アーチボルド氏と東アジアを回るツル見学ツアー」に対応しました。

★ その他の活動

＜提言等＞

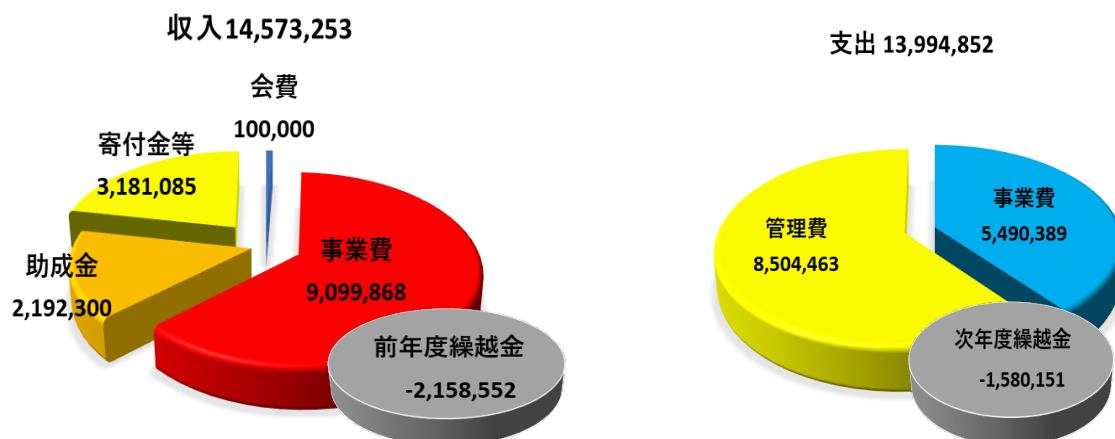
- ・北海道開発局池田河川事務所の行う十勝川の築堤及び高水敷工事に際して、また同釧路河川事務所の行う釧路川築堤工事に際して、タンチョウの生息に悪影響を与えないよう、工事の時期、注意事項についてコメントしました。
- ・佐呂間町にある佐呂間別川沿いのタンチョウ営巣地が、北海道オホーツク総合振興局の残土置き場工事で埋め立てられようとしていることを受けて、タンチョウへの配慮を要請しました。
- ・北海道根室振興局農地課、同釧路総合振興局農地課が事業を予定している草地改良事業、農道改修工事等についてタンチョウの生息に悪影響を与えないよう、工事の時期、注意事項についてコメントしました。
- ・釧路湿原自然再生協議会と同協議会の5つの小委員会に参加しました。

＜本会の活動を支える為の資金調達に向け、

企業等に寄付協力を募る活動＞

- ・仁成牧場、国際ソロプチミスト釧路に当法人への支援・協力を要請するとともに、釧路市ビジネスサポートセンターを訪問して資金獲得の方法について相談しました。

＜2018年度収支実績＞



注：サポート会員の会費は寄付金として扱っています

2019年度 活動計画

★ 調査研究活動

- ・タンチョウ生息状況調査
春の飛行調査及び年間を通じた繁殖状況調査、冬が生息数調査を行います。
- ・タンチョウ標識調査
ヒナへの標識装着とその後の追跡調査を行います。
- ・大陸と北海道とのタンチョウの遺伝子解析
韓国の越冬地で採取した羽毛と北海道の標識調査で採取した血液のDNA分析する研究で、(酪農学園大学寺岡研究室)に協力します。
- ・DNAを使った餌の調査
タンチョウの糞に含まれるDNAを分析し、餌生物の判定を行います。分析は酪農学園大学寺岡研究室にご協力をいただきます。

★ 保護・保全活動

- ・タンチョウの生息地分散
新規営巣地等についての情報収集、現地調査、タンチョウの行動追跡を行います。
- ・中標津俵橋湿原プロジェクト
地元の社会環境調整を進めるとともに、冬期の餌確保のためのデントコーン畑の耕作とニオの設置・管理、タンチョウの生息環境整備に向けた活動を行います。
- ・キナシベツ湿原プロジェクト
キナシベツ湿原を愛する会、浦幌町立博物館の活動に協力して、道立自然公園指定に向けた活動を進めます。
鳥類調査、資料整理、学生によるフィールドアシスタント活動への協力なども行います。

★ 教育普及活動

- ・タンチョウその他ツル類に関する
講演・講習会
最新の情報を広く紹介する為、講演会を随時開催するとともに、RCCの活動とその成果を紹介する勉強会を行います。
- ・出版物の発行等
標識鳥ファイルの内容更新、小冊子[湿地の神 I, II, III]、交通事故防止のためのチラシほかを配布します。

★ 提言及び情報発信

- ・行政の行う事業がタンチョウの生息に悪影響を与えないよう助言します。また、環境省などの行政やNGOと、タンチョウの保護活動の今後の方向性について協議を進めます。
- ・会報等を発行するとともに、ホームページの更新を随時行います。

★ 国際協力活動

- ・国際タンチョウネットワーク(IRCN)の
活動への参加・協力・自主事業
中国のタンチョウ生息地とその周辺国境地帯における普及啓発のための国際プロジェクト(INS)、中国・韓国・ロシアにおけるタンチョウの生息状況把握等を行います。
- ・世界のツル関係者との交流及び情報交換を行います。

★ その他の活動

- ・活動資金の調達等
本会の活動を支える為の資金調達に向け、サポート会員への呼びかけや企業等に寄付協力を募る活動を行います。

トーマス・ワトソン財団のフェロー C. J. ブレア Jr. が来釧なさいました

2019年4月28日から6月8日までC. J. ブレア Jr. さんが釧路に滞在なさいました。CJさんはアメリカのケンタッキー州出身で、オーベルン

大学を卒業された後、トーマス・ワトソン財団のフェロウシップを得て一年間の予定で世界各地を回り、野生動物を中心とした自然保護活動の勉強

をなさっています。これまでにグリーンランド、イギリス、プエルトリコ、ネパールに滞在し、それぞれの国でターゲットを一種対象としています。日本でのターゲットはタンチョウと

いうことで、タンチョウの生息状況を視察するとともに保護活動の現状を把握するために、市民、農家の方々、研究者、保護活動家、行政官への取材を精力的に行いました。

標茶高等学校での自然ガイド授業の感想

ここでは、CJさんが取材活動の一環として訪れた北海道標茶高等学校の自然環境教育の授業に参加なさった生徒さんがお寄せくださいました感想文をご紹介します。

3年次「自然ガイド応用」井上 未来

今回の授業は、私たちが知っているタンチョウの魅力をもCJさんへ伝える授業でした。授業終了後に「楽しかった」、「またやりたいね」と生徒全員が口を揃えて言っていたのがとても印象的でした。

私自身が最も印象深かったことは、CJさんから初めに質問があった「タンチョウを初めて見たのはいつですか」という純粋な質問でした。自然ガイドの授業を受けてから一度も考えたことのなかった質問のため、回答にとっても悩みました。私たちにとってどこでもいつでも観られるタンチョウは、異なる環境では同じではないことに気が付きました。私たち標茶高校生などタンチョウに慣れ親しんでいる立場にとって、覚えのない感情だと思いました。改めてタンチョウとの関わりを考えることができました。

また、CJさんからの質問で「タンチョウの保護について興味はありますか」という質問がありました。実は私はこの「自然ガイド」という授業を受けるまで、タンチョウに興味もなければ、外へ出ることすら好きではありませんでした。そのようななか、私はテストがないからという理由だけで選択したこの授業を通して、2年間多くのことを学ぶことができました。そのひとつとして、去年の夏休みに活動した全国高校生自然環境サミットというのがありました。これは私たちが地域の専門家となり、全国から参加してくれた高校生にガイドするというものでした。私にとっては未知の世界だったので不安でたまらなかつたのですが、このイベントが無事終わったときの達成感や楽しみは凄かったです。今までに感じたことのないほどの達成感でした。CJさんとの対話後にふと思い出すほどで、改めて今回のCJさんとの対話を通して、単純にCJさんのような人がもっと増えて欲しいと思いました。



私もこの2年間で学んだものは沢山あります。

今回の対話を通してさらに感じたことは、自分の成長です。この授業を通して学んだことは数え切れないほどありますが、この授業を受ける前後で大きく自己を高めることができました。卒業前最後にある来年1月のタンチョウガイドでは、CJさんとの対話を生かして、日本以外に住んでいる方々にもタンチョウの魅力を伝えられるように、頑張りたいと思います。そして、CJさんのようにタンチョウを知りたいという人が増えるように頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。また機会があったらたくさん話してください。次回は私からも質問を用意しておきます！

3年次「自然ガイド応用」藤田 菜央

私たちは、5月31日にアメリカの留学生である男性と『自然ガイド入門・応用』の授業でタンチョウについて対話する機会がありました。1・2月には鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリで世界中から来た観光客の皆さんにタンチョウについてのガイドを行う授業があります。高校で外国の方をお呼びしてお話しするという機会は滅多にないため、とても貴重な機会となりました。また、2年生にとっては初めての国際交流となりとても良い機会になったことと思います。今回、来校された留学生の方は主にタンチョウについて研究しているだけでなく、私たちの地元に生息している最も身近な天然記念物について国際的な視野から考えている人がいると聞いた時はとても驚きました。

「そもそもどのような理由でタンチョウという

生物を知ったのか」、「研究しようと思ったきっかけはなんだったのか」など、私にとって興味湧く質問ばかりでした。はじめは留学生の方からの質疑応答として、普段身近にいるタンチョウについての質問がありました。

やはりタンチョウがいることが珍しく目を丸くして聞いてくださったことがとても印象に残っています。私たちからの質問にも丁寧に答えてくださいました。

今回の交流を通して感じたことは、タンチョウの存在が日本中でも注目されていると同時に、外国の方も興味を持ってくださっているということです。タンチョウについて勉強している私たち高校生自身がとても嬉しかったです。道東を主な生息地としているタンチョウは、現在、生息数が増加傾向にあります。「タンチョウという貴重な存在を日本だけではなく、外国の方にも知ってほしい！」そんな思いで私たちは日々タンチョウについて勉強をしています。だからこそ、もっと多くの方にタンチョウの魅力を知っていただけるように私たち高校生の手で発信し、広げていきたいです。

今回交流の時間を設けてくださいました、タンチョウ保護研究グループの方をはじめ、先生方には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。



2年次「自然ガイド入門」孫崎虎太郎

CJさんの質問や話を聞き、タンチョウが本当に好きな方だと感じました。きっかけは病院でお見舞いの千羽鶴を見てからと仰っていて、日本の文化とは言わないが、風習などからタンチョウを含む鳥に興味を持ち始めたそうで、良い風習だなと感じました。

CJさんからの「タンチョウをどこに見に行きますか？」や「初めて見たのはいつですか？」などの質問に対して、「この地域では当たり前にいるため自分から見に行くというよりはタンチョウの方がこちらに来る」と私が答えるととても驚いていました。やはり、天然記念物のため他の地域では

珍しいのだと改めてその価値を知ることになりました。他にも「タンチョウは社会にとって必要か？」という質問がありました。私は、実家が農家であることから否定的な考えを持ってしまいました。牛を怖がらせたり配合飼料を食べたりと天然記念物である分、駆除ができず毎年困っていたからです。しかし、CJさんはこんな意見に対しても真摯に受け入れてくださり、最後には「ありがとうございます」とまで仰っていただきました。本当にタンチョウを保全していきたいからこそ言えることだろうと感じました。そして最後の質問となった「タンチョウと人との関わり」については、人それぞれで考えは異なりますが、天然記念物であり、タンチョウの生息しない地域の人からすればとても神聖なもので観光資源にもなり良い面もあり、先程の私の考えのような悪い面もあり、給餌場所を少しずつ減らして人里から離していく政策や他の地域へ生息域を広げてもらうなど、考え次第でどんな政策であっても難しい問題だなと思いました。さらに、国籍なんて関係なくただ好きなものを守りたいと言う思いに感激しました。

その後、こちらから私たちから自然ガイドの授業についての説明をしました。そのとき私は少し緊張しましたが、標茶が標茶と呼ばれるまでの歴史について伝えることができとても嬉しかったです。また、最後にはこちらからCJさんに質問をする機会が設けられました。そこでは、意外なことにCJさんは日本食が好きで、特に納豆が好きと仰っており、日本人ながら凄いなと思ってしまいました。たった2時間程度の時間でしたがタンチョウに興味を持ち、標茶まで来てくださるその意志はこちらにも学ぶべきところがあり、私もこれから頑張っていきたいと思いました。

2年次「自然ガイド入門」加藤 雄太

CJさんにタンチョウを何歳の時に初めて見たかと聞かれた時、私はあまりにもタンチョウを身近に感じすぎていたためタンチョウを初めて見たときの感動を思い出させていただきました。また、自然ガイドの授業をこれまで学んできて、タンチョウは一部の地域で数が増えすぎているということもわかりました。その対策として、CJさんが考えていたことは、タンチョウを他の県に移住させることができれば良いのではないかと話していただきました。また、私はタンチョウを他の県に移住させてしまったら、タンチョウがその地域の環境に

対応できないのではないかと思います。そこで私が考えたことは、タンチョウをもう一度渡り鳥に戻すことができれば、タンチョウによる被害が少なくなるのではと考えました。その方法として、冬の給餌を少しずつ減らすことでタンチョウは餌を求めて渡るのではないかと思います。無理矢理ではありますが、タンチョウによる被害を可能な限り

少なくしながら、被害に合われている方に少しでもタンチョウのことを好きになってもらえるように最良の対策をとることができるようにしなければなりません。C Jさんのように、タンチョウによる被害者や、タンチョウ自身のためにできることを真剣に考えてくれる人がこれからも増えて欲しいと感じました。

<連載> 鳥と自然と人④ 「NYのトリキチ」

石 弘之（本会顧問）

ニューヨークには、バードウォッチングの名所が結構多い。そのなかでも、最高の場所は、マンハッタンのど真ん中のセントラルパークだ。ここは、都会派バードウォッチャーの聖地といっても良いだろう。

パークは19世紀半ばにつくられた。南北4キロ東西0.8キロの長方形。大都会のなかにありながら、池、小川、草地、溪谷、岩場など多様な自然があり、「重要鳥類保護区域」に指定されている。

公園の創設以来、これまでに観察された鳥は280種。ここで営巣している鳥も28種が確認されている。5種類ものフクロウも越冬している。

東海岸に沿って南北に移動する渡り鳥が周辺の海岸で餌をとり、市内のパークで休んでから飛行をつづける。毎年12月にはNGO主催の「クリスマス・カウント」が行われ、109回目になった昨年は

58種類、5592羽が観察された。

昨年秋には、15種約1万5000羽の猛禽類が上空を渡っていった。このなかにも、125羽のアメリカチョウゲンボウ、75羽のミサゴ、10羽のハクトウワシも含まれていた。

これまで63種のアメリカムシクイの仲間が観察されている。私がおっとも苦手とする鳥だ。小さくて茂みのなかをちょろちょろして姿をあまり見せない。鳴き声で探すしかない。

約70人のボランティアの自然ガイドがいて、いつ訪ねてもその日に見た鳥の種類やウォッチングの場所を教えてくれる。鳥類学者のロバート・カンディード博士は、金曜日と土曜日の朝に3時間のウォーキングツアーを開催している。世界中から、ここでのバーディングを目当てに通ってくる人も少なくない。

Belaya(ベラヤ)の続報(事務局)

2017年に国後島で標識され、2018年の10月にはGreenと名付けられた幼鳥1羽を連れて北海道で越冬したのが確認されているBelaya

ですが、今シーズンは2羽のヒナを育てているのが6月29日に確認されました。秋には家族揃って元気な姿を見せてくれれば良いですね。



写真提供: クリル国家自然保護区学術調査研究担当副所長 エフゲニー・コズロフスキー氏

<活動記録> (2019年4月～7月)

- 3月29日 会報Tancho36号発送
4月3日 釧路総合振興局と管内の草地整備事業について協議(百瀬)
4月10日 釧路市ビジネスサポートセンター(k-Biz)で法人の経営相談
4月13～14日 宮城県丸森町のタンチョウ復帰を考える会の梅津会長ほかのタンチョウ視察団をご案内
4月20～21日 十勝地方の飛行調査実施
4月23日 根室振興局農村振興課と今年度の農業農村整備事業に関するタンチョウへの影響と配慮事項についての協議(百瀬)
4月28日 C.J.ブレア氏来釧(6月8日まで、タンチョウの現場視察と保護関係者へのインタビュー活動)
5月10日 運営会議
5月17日 釧路河川事務所と河川工事にあたってのタンチョウへの留意事項について協議
5月25日 2019年度第1回理事会(於:シルバーシティーときわ台ヒルズ)
5月26日 2019年度第1回総会(於:釧路市中部地区コミュニティーセンター)
5月29日 北海道開発局釧路農業事業所の農地再編整備事業について協議(百瀬)
5月31日～6月1日 俵橋湿原でデントコーンの種まき(10名参加)
6月7日 運営会議
6月8日 標識調査勉強会(於:釧路市民活動センター わっと)
6月11日 池田河川事務所で情報交換会(百瀬)
6月22日～7月21日 標識調査実施
6月25日 釧路湿原自然再生協議会 第33回再生普及小委員会に出席(井上)
6月27日～7月2日 タイからオオヅル野生復帰プログラムのメンバー来釧
6月27日 TKGニュース66号発送
7月18日 第1回タンチョウ越冬敵地解析等検討ワーキンググループ会議(環境省)に出席(百瀬)
7月26日 釧路湿原自然再生協議会 第8回地域づくり小委員会に出席(井上)

<会員 (7月24日 現在)>

会員数:180名(運営会員:27名、個人サポート会員:153名(卵 116、ひな 34、若鳥 2、成鳥 0、終身 1))

Red-crowned Crane Conservancy (RCC) newsletter

TANCHO

Thirty-seventh issue July 2019

<表紙写真>

撮影:本藤 泰朗(風連湖)

* 標識調査の一コマです。

背後の草叢を掻き分けての強行軍で
干潟にいたヒナの標識作業に成功し、
疲れ切って引き上げてきたメンバーたち

認定特定非営利活動法人

タンチョウ保護研究グループ

〒085-0036

北海道釧路市若竹町9番21号

Tel/Fax 0154-22-1993

e-mail: tancho1213@pop6.marimo.or.jp

URL: <http://www6.marimo.or.jp/tancho1213>